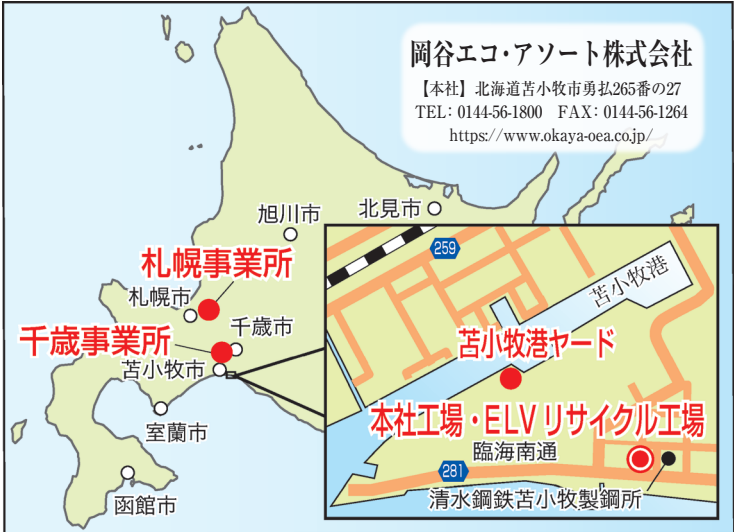


SUMITOMO

拠点所在地



左から：現場オベの山田氏、荒井工場長、伊藤社長、現場オベの鈴木氏

伊藤社長は2023年7月に岡谷鋼機から岡谷エコ・アソート副社長に就任。今年1月に社長に就任した。他地区のヤードを直に見てきた経験を生かして、現在はデッドスペースの有効活用など、安全性や機能性を高める新たな取り組みに着手している。

2023年に操業開始から50年を迎えた会社は、次の50年を見据えた改革を続けている。伊藤社長も「ここはブレずにやっていく」と力を込め、組織の活性化や地域への貢献をテーマとして人材育成や災害対応などに注力する方針だ。

組織の活性化において本社工場の荒井学工場長は、ボトムアップで活性化を図る。彼らは我々が気づかないことを多く知っており、学びを得ることが多い(荒井工場長)として、会社成長の鍵は社員が握っていることを強調する。実際に有価物の回収作業などは現場スタッフの声を反映したものが多い。現場スタッフの意見は収益に直結するといいい、こうした声を受け入れる土壌が会社にはある。リサイクル紀行の記念撮影の際も、伊藤社長と荒井工場長は荷役機を操縦する2人も加わってよいかと要望し、4人が肩を組んで写真に収まった。岡谷エコ・アソートの会社柄を表す出来事だった。

北海道苫小牧市は、アイヌ語で「山奥に入っていく川」を表す「マコマイ」に「沼」の意味を持つ「ト」を付けたものが由来とされる。豊かな自然に囲まれた街はアクセスの良さが道内屈指だ。新千歳空港から程近く、高速道路網は札幌圏と道南・道東地区を結ぶ拠点になっている。苫小牧港の機能性を生かして製造業も発展してきた。苫小牧市で金属リサイクル業を行う岡谷エコ・アソート(本社〃苫小牧市勇払、伊藤和也社長)を訪ねた。

付加価値向上や新規事業
積極投資で事業基盤を強化

岡谷エコ・アソートは、商工処理して、ユーザーに再生社・岡谷鋼機によって「北海道オートスクラップセンター」として1972年に創業。2022年に創業50周年を迎えた、年商40〜50億円規模の有力リサイクラーだ。油圧シヤーやシュレッダーなどの大型設備を揃える本社工場で、鉄スクラップを中心に年間5000〜6000トを加

は本社工場に隣接する電炉メーカー・清水鋼鉄苫小牧製鋼所がメインとなっている。2004年からは使用済み自動車のリサイクル事業に本格進出。解体から破碎を行う一貫処理工程で月間150〜170台ほどを扱っている。人口流出や少子高齢化などによって、北海道のスクラップや使用済み自動車の発生は減少傾向にある。年間100

「次の50年」へ組織改革
ボトムアップで活性化図る

伊藤社長は2023年7月に岡谷鋼機から岡谷エコ・アソート副社長に就任。今年1月に社長に就任した。他地区のヤードを直に見てきた経験を生かして、現在はデッドスペースの有効活用など、安全性や機能性を高める新たな取り組みに着手している。

2023年に操業開始から50年を迎えた会社は、次の50年を見据えた改革を続けている。伊藤社長も「ここはブレずにやっていく」と力を込め、組織の活性化や地域への貢献をテーマとして人材育成や災害対応などに注力する方針だ。

組織の活性化において本社工場の荒井学工場長は、ボトムアップで活性化を図る。彼らは我々が気づかないことを多く知っており、学びを得ることが多い(荒井工場長)として、会社成長の鍵は社員が握っていることを強調する。実際に有価物の回収作業などは現場スタッフの声を反映したものが多い。現場スタッフの意見は収益に直結するといいい、こうした声を受け入れる土壌が会社にはある。リサイクル紀行の記念撮影の際も、伊藤社長と荒井工場長は荷役機を操縦する2人も加わってよいかと要望し、4人が肩を組んで写真に収まった。岡谷エコ・アソートの会社柄を表す出来事だった。

は本社工場に隣接する電炉メーカー・清水鋼鉄苫小牧製鋼所がメインとなっている。2004年からは使用済み自動車のリサイクル事業に本格進出。解体から破碎を行う一貫処理工程で月間150〜170台ほどを扱っている。人口流出や少子高齢化などによって、北海道のスクラップや使用済み自動車の発生は減少傾向にある。年間100

は本社工場に隣接する電炉メーカー・清水鋼鉄苫小牧製鋼所がメインとなっている。2004年からは使用済み自動車のリサイクル事業に本格進出。解体から破碎を行う一貫処理工程で月間150〜170台ほどを扱っている。人口流出や少子高齢化などによって、北海道のスクラップや使用済み自動車の発生は減少傾向にある。年間100



本社事務所(苫小牧市勇払)

徹底や有価物の回収率向上によって付加価値の向上を図っている。加工処理機械や荷役機の更新といった設備投資も継続的に行っており、今後も「エコ・アソート」の本質を追求しながら事業基盤を強化していく構えだ。

また、近年は新規事業にも進出している。2020年には貴金属のリサイクル拠点・千歳事業所を開設した。月間100トほどを手掛ける貴金属事業は会社の収益に貢献する部門となっている。

自動車リサイクル事業も「台数」から「収益」を重視した運用にシフトしている。ECサイトとオークションを通じて自動車パーツ販売は年間売上3億円ほどの規模に達しており、会社の成長の柱として拡大が期待される。

～住友建機がある風景～



SH330LC-7: 岡谷エコ・アソートは2025年4月現在、本社工場にSH330LC-7(2機)とSH250-7を、集荷拠点の札幌事業所にはホイールタイプのSW350-7を導入している。

トラブルを未然に防ぐ運用

現場スタッフや工場長に信頼を置く伊藤社長は、機械類の選定においても、現場からの要望を第一の判断材料とする。

住友建機の印象について機械を操作する山田ブルーノ氏と鈴木健吾氏は、「動きが良く、やりたい操作を円滑に実現してくれる」、「トラブルが少なく信頼できるマシン」と、気さくに応じてくれた。

岡谷エコ・アソートでは2018年にSH250-7を本社工場に初めて導入。荒井工場長は「導入後の機械稼働の順調さとサービスが決め手になり、住友建機の採用を続けている」という。特に強



SW350-7(札幌事業所)

調するのが『プロメンテ』を含むアフターメンテナンスに対する評価だ。住友建機のプロのサービススタッフが技術的なアドバイスを適切に行うことで、大きなトラブルを未然に防止する運用を実現している。

伊藤社長は「スタッフが評価している部分をこれからも変わらずにやってほしい。機械性能やプロのサービススタッフによる提案は工場の運用コストに与える影響も大きい」といい、住友建機の提案とパフォーマンスに期待を寄せている。

担当：山口 航平

何年先も「やっぱり住友建機を選んでよかった」と思っていただけよう、最適な提案と最高のパフォーマンスをお約束いたします！

住友建機販売株式会社 札幌支店

〒001-0931 札幌市北区新川西1条1丁目2-30

Tel : 050-9001-8627 Fax : 011-768-2096